



福島県立図書館所蔵貴重資料CD-ROM

福島県立図書館では、福島県に関する様々な資料を所蔵しています。中でも、古くは江戸時代の文書類や明治期の写真、あるいは錦絵等は、永く後世に伝えていかなければならない、特に貴重な地域の資料です。

図書館では、これら貴重資料の電子化を進めています。これにより、取り扱いに注意が必要な古い資料も、CD-ROMで簡単にご覧いただくことが出来るようになりました。

福島県の貴重資料をどうぞ気軽にご利用下さい。

※貴重資料のCD-ROMは、図書館内の端末でご利用下さい。貸出もしています(「朝河貫一書簡資料集」を除く)。

※CD-ROMからコピーも出来ます(モノクロ:10円、カラー:50円)。

※一部は福島県立図書館HP(<http://www.library.fks.ed.jp/>)の“デジタルライブラリー”でも公開しています。

がついているのは、HPでもご覧いただける資料です(平成20年12月現在)。

CD-ROM 原資料
請求記号 請求記号

平田村文書		寛文11-安政1(1671-1854)	CS090/H1	L090/H1
→(信夫郡)平田村は、現在の福島市飯坂町平野字平田。 → 内容 :御水帳, 陸奥国信夫郡平田村百姓林反別帳, 村惣作地高反別帳, 平田村惣作地高反別相改帳, 御廻米之儀ニ付被仰渡御請書, 陸奥国信夫郡平田村竹御林所新開検地帳, 家作等之儀ニ付被仰渡請書帳, 朝鮮種人参之儀ニ付被仰渡御請書, 御廻米江戸納入用掛札覚, 屋敷田畑質入並竹木直段附書上帳, 小三郎内御林竹木改書上扣帳, 竹御林帳, 寅年宗門人別持高御改帳, 徒党之者有之候ハバ捌取候様被仰渡御請書, 小三郎内御林御改帳, 御救御貸附金拝借御請証文連印帳, 田畑質地直段書上帳, 田畑屋舗質地直段書上帳, 田畑質地直段書上帳, 田畑屋敷質地直段書上帳, 田畑屋敷質地直段書上帳, 田畑屋敷質地直段書上帳, 田畑屋敷質地直段書上帳, 田畑屋敷質地直段書上帳, 寄持人上金拝借質地証文, 寄持人上金拝借質地証文書上帳, 寄持人上金拝借質地証文書上帳, 高反別相改書上帳, 乍恐以書附奉願上候				
李平古文書 李平古地図		江戸～[明治初期] [写]	CS090/S1/1	L090/S1
→李平村は、現在の福島市李平。 →古文書:12通(帙入), 古地図:8鋪(帙入)				
神林復所関係資料	神林復所／編	[出版年不明]	CS121.4/K1	L121.4/K1/1-
→神林復所は磐城平藩校施政堂教授で儒者。学者の大須賀筠軒(「磐城史料稿本」の項参照)の父。晩年は著述を唯一の楽しみとし、著書は300余部に及びます。その膨大な著作のうち、一部の自筆稿本類が「神林復所関係資料」として当館に伝来しています。				
選択之伝	良定／著	寛永1(1624)	CS180/R1	L181/R1/1
陸奥福島板倉藩福島日記		寛政7,9(1794, 97) [写]	CS210/F2	L210.08/F4
→寛政6年12月～7年6月, 寛政9年3～8月の2冊の日記があります。				
福島県写真帖	福島県／編	明治41(1908)	CS210/F3	L291.03/F1/5
→明宮嘉仁親王(後の大正天皇)が明治41年秋、東北地方を行啓されたことを記念して、福島県が編集したモノクロの写真帖。当時の福島県各地を、52枚の写真で知ることができる貴重な資料です。				
奥羽戦争福島藩記事	山岸文蔵／著	明治32(1899) [写]	CS210/O1	L210.6/Y1/1
→ 内容 :板倉家略系, 福島藩役員録 他 →地図4枚:福島城之略図, 福島城殿中之略図, 福島城本丸御霊社之図, 参河国重原藩庁及と藩士邸宅割与地ノ図				

東巡奏聞録〔1〕-〔12〕	福島県／編	明治9(1876)〔写〕	CS210/T1	L210.08/F1/4-
→明治9年(1876)明治天皇巡幸の際に提出された、福島県関係の各種統計資料。				
明治十四年福島大火記録	福島県／編	明治14(1881)〔写〕	CS211/F1/1	L211/F1/1
→当時の福島町の3分の2を焼失し、火元の主人の名から「甚兵衛火事」とも呼ばれる大火の記録。				
信夫郡村誌 巻1-巻7	中川英右／編	明治12(1879)〔写〕	CS211/S1	L291.1/F1/1-
伊達郡村誌 巻1-巻13	[中川英右,佐藤精明/調査]	明治12-15(1879-82)〔写〕	CS212/D2	L291.2/F1/2-
→明治8年(1875)、明治政府が発した地誌編纂の命により、福島県では各町村に地誌の提出を求めました。信夫郡と伊達郡については、編輯係の中川英右が担当し、「信夫郡村誌」「伊達郡村誌」をまとめました。				
信達風土雑記	日下兼延／著	元文5(1740)跋〔写〕,宝暦1(1751)〔写〕	CS211/S2	L291.1/K1
→成立は元文2年(1737)。信夫郡・伊達郡についての最も古い地誌ですが、原本は散逸しています。当館では、原本に近いとされる元文5年本を含め、5種類の写本を所蔵しています。				
延享二年丑二月信達騒動訴状之写 		延享2(1745)〔写〕	CS211/S3/1	L211/S9/1
→江戸時代になると検地が徹底され、領主や代官が代わるたびに年貢が増していきました。信達地方(現在の福島市、伊達市及び伊達郡)の農民達は、度重なる凶作と重税、人馬扶助に困り果て、元禄年間(1688～1745)頃から、各地で団結し、窮状を訴える行動を起こしました。 この訴状は、延享2年(1745)、伊達郡、信夫郡の農民が、福島藩役所の新家弥市衛門に宛てたものの写しです。				
伊達郡各村地図 		[江戸末期～明治初期]	CS212/D1/1-	L291.03/D1
→江戸時代末期から明治時代初期に描かれた、伊達郡内各村の絵地図で、全部で94枚あります。当時の伊達郡管内の村の名称や位置、領域や区分等を知ることができます。 →内容:湯野村,東湯野村,茂庭村,立子山村,大波村(以上、現在の福島市), 大久保村,西飯野村,飯野村,青木村(飯野町), 小島村,川俣村,飯坂村,小綱木村,大綱木村,鶴沢村,東福沢村,西福沢村,小神村,羽田村,秋山村(川俣町), 長岡村,箱崎村,伏黒村,中瀬村,小幡村(伊達市伊達町), 月館村,布川村,御代田村,糠田村,上手渡村,下手渡村(伊達市月館町), 大泉村,金原田村,二井田村,大立目村,上保原村,大柳村,柱田村,所沢村,富沢村,高成田村,保原村(伊達市保原町), 藤田村,山崎村,石母田村,小坂村,泉田村,内谷村,鳥取村,徳江村,塚ノ目村,森山村,高城村,大木戸村, 光明寺村,貝田村,河内村,西大枝村(国見町), 桑折村,松原村,万正寺村,平沢村,成田村①②,北半田村,南半田村,谷地村,伊達崎村,上郡村,下郡村(桑折町), 東大枝村,五十沢村,八幡村,舟生村,山舟生村,白根村,大関村,細谷村,新田村,栗野村,二野袋村,向河原村,柳田村,梁川村(伊達市梁川町), 石田村,山戸田村,中川村,大石村,泉原村,掛田村,山野川村,上小国村,下小国村(伊達市霊山町), 福島県第二区全図				
白川家政録 上, 中, 下	松平定信／著	天明3(1783)跋〔写〕	CS215/S1	L215/S3/1-
→松平定信が家臣に家政上の心得を諭したもの。				
会津御代々記		[出版年不明]〔写〕	CS216/A2/1	L216/A6/1
芦名家記		元禄5(1692)〔写〕	CS216/A3/1	L216/A3/1
磐城郡村誌 巻1-巻11	大須賀次郎／編	明治11(1878)〔写〕	CS218/I1	L291.8/F1/1-
宇多郡村誌 巻1-巻19	川瀬教文／編	明治14-17(1881-84)〔写〕	CS219/U1	L291.9/F1/2-
→明治政府が明治8年(1875)に発した地誌編纂の命によりまとめられたもの。磐城郡は現在のいわき市北部の一部。同じく宇多郡は相馬市から新地町にかけての地域。 →「磐城郡村誌」編者の大須賀次郎という名は、筠軒の本名(「磐城史料稿本」の項参照)。				

石城郡誌 巻1-巻5		〔大正初期〕〔写〕	CS218/I2	L291.8/I1/1-
→明治44年(1911)に県が掲示した郷土誌編纂要項の訓令により編纂された郡誌。石城郡は現在のいわき市のあたり。				

磐城史料稿本 巻1-巻6,親古一班	大須賀筠軒／著	〔明治中期〕〔写〕	CS218/O1	L218/O1/3-
→磐城の古代から近世に至る通史。著者の大須賀筠軒は磐城出身で、漢詩人にして画人、史家でもありました。父は神林復所(「神林復所関係資料」の項参照)。				

寛政度御書上御系譜写		〔寛政11(1799)〕〔写〕	CS288.2/K1/1	L288.2/K1/1
------------	--	-----------------	--------------	-------------

朝河貫一書簡資料集			CS289/A1/1	
朝河貫一書簡資料集(カラー版)			CS289/A1/2	
→二本松市出身の世界的歴史学者・朝河博士が出した書簡及び博士宛に届いた書簡のコレクション。和文・英文書簡2,529点、関係写真等261点。				
→原資料は「朝河貫一資料目録」(L289/A7/13)により、別体系で整理・保管しています。				

磐城岩代両国全図	福島県地理課／編	明治12(1879)	CS291.03/F1	L291.03/F1/2
----------	----------	------------	-------------	--------------

福島県管内全図	福島県農商課／編	明治20(1887)	CS291.03/F1/3	L291.03/F1/12
---------	----------	------------	---------------	---------------

安達安積大概録		〔出版年不明〕〔写〕	CS291.2/A1	L291.2/A1/1
→巻末に“元治二年白幡山二十四世東学院光旋書写之”とあります。				

相生集 巻1-巻20	大鐘義鳴／著	天保12(1841)序〔写〕	CS291.2/A2	L291.2/O1/1-
→著者は二本松藩士。「相生集」は二本松藩の代表的な地誌です。				

新編会津風土記 巻1-巻120		文化6(1809)序〔写〕	CS291.6/S1	L291.6/S1/1-
→緻密な調査と編集に6年の歳月をかけた、江戸時代を代表する地誌。				

若松県誌稿	〔若松県〕／編	明治8(1875)	CS291.6/W1	L291.6/W1/1
→会津地方が“若松県”だったのは、明治2-9年(1869-1876)。				

福島奇聞 自由の夜譚	箕輪勝／編	明治16(1883)	CS310/F1/1	L312/M2/1
→会津三方道路開鑿から福島事件高等法院公判までを編集したもの。				

〔福島〕県史〔1〕,〔2〕	福島県／編	〔明治初期〕〔写〕	CS310/F2	L210.08/F1/1-
---------------	-------	-----------	----------	---------------

磐城国三春県磐前県中村県泉県 記録		〔明治初期〕〔写〕	CS310/I1	L310/I2/1
→磐城国は、明治元年(1868)、陸奥国を磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の五ヵ国に分けた際に制定された国。				

磐梯山噴火写真 	遠藤陸郎／撮影	〔明治21(1888)〕	CS450/B1/1	L453.8/B2/1
→明治21年(1888)7月15日、磐梯山が爆発。仙台の写真師遠藤陸郎はいち早く駆けつけ、7月17日に噴火直後の様子を撮影しました。被害は、死者477名・負傷者70名・死傷牛馬60頭・埋没倒壊戸数166戸等の大惨事となりました。現在のように交通手段が発達しておらず、報道写真や記録写真がまだ定着していなかった時代に、磐梯山噴火直後の惨状を伝え、記録として残した貴重な写真です。				
→内容:写真(35cm×44cm)、25枚。				

福島県監獄署写真		〔明治初期〕	CS520/F1/1	L526.3/F1/1
→信夫山の麓(福島市狐塚)には、かつて監獄署がありました。現在の福島刑務所の前身です。				
→内容:写真(35×43cm)、13枚。				

郡村農具ノ図 	福島県／編	明治5-16(1872-83)	CS610/F1/1	L614.8/F1/2
→明治5年(1872)に当時の大蔵省は各府県に対し、管内・郡村などを取り調べ、農具を一通りずつ買い				

上げて差し出すよう布告しました。後に現品の提出ではなく、報告のみ提出するよう再布告します。「郡村農具ノ図」は、福島県で提出したものの控で、安達郡・安積郡・白河岩瀬郡の3地域の農具絵図が報告されています。

福島県林野史料	福島県／編	明治38(1905)〔写〕	CS650/F1	L650.2/F1/1-
---------	-------	---------------	----------	--------------

山林沿革史	福島県／編	明治13(1880)〔写〕	CS650/S1	L650.2/F1/3
-------	-------	---------------	----------	-------------

阿武隈川水路図		文政5-6(1822-1823)〔写〕	CS680/A1/1	L684/A1/1
---------	--	---------------------	------------	-----------

→幅33cm、長さは13mを超える、南画風の彩色が美しい巻物。江戸時代、活発な舟運で賑わっていた当時の阿武隈川の様子が描かれています。

福島県道路風景画帖		高橋由一／画	〔明治10年代後半〕	CS680/F1/1	L685.2/F1/1
-----------	---	--------	------------	------------	-------------

福島県下諸景写真			〔明治10年代〕	CS680/F2/1	L685.2/F1/2
----------	---	--	----------	------------	-------------

→明治15年(1882)、県令として福島に赴任した三島通庸は、県会議長河野広中等の反対を押し切り、会津三方道路(会津若松から山形・栃木・新潟三県に通ずる道路)の建設を決めました。翌年、三島通庸はそれらの土木事業の成果を記録として残すため、風景画を洋画家高橋由一に、写真撮影を菊池新学に委嘱しました。

「福島県道路風景画帖」は、会津三方道路を含めた、当時の福島県内各地の道路沿いの風景や、大規模な工事の様子が描かれた画集で、石版に描いた淡彩画を絹地転写し着色した53枚の絵を、台紙に貼り、折本としたものです。

「福島県下諸景写真」は、福島県が会津方部土木事業としてまとめたもので、当時の大規模な土木工事の様子が写真に収められています。

福島県立図書館所蔵 錦絵一覧				CS720/N1/1	L721.8/
----------------	--	--	--	------------	---------

→錦絵とは、江戸時代に庶民的な絵画として流行した浮世絵の一種で、多色刷り木版画のことをいいます。絵師と彫師、摺師による総合美術で、多くの色を正確に摺り分け錦のように華やかで美しいことから錦絵と呼ばれました。

→当館所蔵の福島県関係錦絵は、次の18タイトル(22枚)。

①府県名所図会 福島県猪苗代湖②奥州相馬妙見祭(3枚)③奥州相馬妙見祭(古典画)(3枚)④諸国六十八景 陸奥柳津⑤諸国名所百景 奥州相馬妙見祭馬追の図(以上、安藤広重／画)、⑥磐梯山噴火の図(福田熊次郎)、⑦福島県岩代国福島町信夫橋真景ノ図(辻岡文助／画工)、⑧飯坂全図(円活／写)、⑨奥会津大合戦芦名盛隆敗走遂二降伏平定図(国輝／画)、⑩源頼朝公奥州泰衡征罰之図、⑪明治九年奥羽御巡幸の図(孟齊／画)、⑫白虎隊英雄鑑(夏良／画)、⑬相錦後日話(小国政／画)、⑭奥州会津図(貞秀／画)、⑮奥羽御巡幸於須賀川駅良馬選挙図(周延／写)、⑯磐梯山噴火之図(土佐光／画)、⑰会津道中細見記(山田雪朝／画)、⑱八幡太郎義家奥州軍立之図(芳盛／画)

栗子隧道十二景		菅原白竜／画	明治14(1881)〔写〕	CS720/S1/1	L721.7/S1/2
---------	---	--------	---------------	------------	-------------

→山形県令三島通庸は、明治9年(1876)から明治14年(1881)にかけて、栗子隧道(米沢と福島を結ぶ幹線道路)を切り開きました。

この画集は、出羽国時庭村(現・山形県長井市)出身の南画家菅原白竜が、明治14年(1881)7月、完成間近の栗子隧道を歩き、その眺望に感動し、景色を12枚の彩色画として描いたものです。

白竜はこの画集を3冊作り、1冊を開通式の際明治天皇に、もう1冊を自家版とし、最後の1冊は、隧道を案内した、伊達郡湯野村(現・福島市)の高橋百菜翁に贈りました。当館所蔵のこの画集は、高橋百菜翁に贈られたものです。巻末にこの旨の書き入れがあります。

磐梯和歌集	いやはし	安部井武氏／編	〔明和9(1772)〕〔写〕	CS900/I1/1	L911.1/B2/1
-------	------	---------	----------------	------------	-------------

→会津藩士・安部井武氏により編纂された私撰和歌集。序文と作者略伝、本文・上中下巻で構成。江戸時代中期の会津歌壇情勢を知るための重要資料です。

三草集		松平定信／著	〔明治期〕	CS910/S1/1	L911.1/M3/2-
-----	--	--------	-------	------------	--------------

→松平定信自撰の私家集。詠歌時期に応じて「よもぎ」「むぐら」「あさじ」の3部で構成されています。当館所蔵資料は復刻版(原本は文政10(1827))。